

科目分類	養護教諭・栄養教諭 資格関連科目			開講学科	看護学科 医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
14004	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	教育制度論 (Systems of Educational Institutions)				
担当教員名	豊田 英敏				
授業の概要及び到達目標					
<p>○授業の概要</p> <p>学校や地域の様子を具体的資料をもとに思い浮かべながら、教育に関する制度的・経営的・社会的事項を系統的に学び、内在する課題や政策動向を理解する。その際、学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。</p> <p>授業では、毎回、テーマにそったキーワード、基礎的事項、法令等の学習を行い、内容の理解に入る。他の事例や諸外国の教育制度にも言及する。</p> <p>○到達目標</p> <p>学校教育に関する社会的・制度的・経営的に関する基本的な事項を理解し、自分の言葉で説明ができる。</p> <p>自分の教育体験と重ねながら学修内容を理解し、よりよい教育のための条件整備について考え、自分の意見を述べることができる。</p>					
準備学習等					
<p>・憲法・教育基本法・学校教育法・学校教育法施行規則・学校保健安全法・食育基本法をプリントアウトしたものを毎回持参のこと。</p> <p>第1回：ガイダンス 「教育制度」を学ぶ意義 (予・復習時間) 教職関連科目で学修した教職関連法規を確認しておくこと。 1時間</p> <p>第2回：「児童の学習権」について 1時間 「児童の学習権」について調べ、制度上の課題を把握しておく。</p> <p>第3回：教育法の仕組みについて 1時間 既習の教職関連法規の確認をしておく。</p> <p>第4回：「教育の目的と目標」について 1時間 教育の目的と目標をまとめておく。</p> <p>第5回：学校教育制度と義務教育制度、「義務教育の目的と目標」について 1時間 (学校安全への対応含、特に学校管理下で発生する事故等からの危機管理理解)</p> <p>第6回：学校経営と地域との連携について 1時間</p> <p>第7回：教育に関する社会的情勢と教育の機会均等について 1時間 今日的な教育課題について自己の見解をまとめておく。</p> <p>第8回：学習のまとめ 教育制度論を学ぶ意義を通して、教育制度と教育実践について各自意見交換を行い、教育制度の「課題」について討論しレポートとしてまとめる。1時間</p> <p>・毎回、キーワードを中心に課題を示すので学習しておくこと。最終レポートはこの中から主に出題される。試験レポートの作成方法については、授業時に説明を行う。</p> <p>・第1回に配布する「シャトルカード」は、毎回の授業での学習内容と考察を記入し、毎回授業終了後に提出すること。</p>					

成績評価の方法	最終レポート（60%）、提出物（20%）、授業への参加態度（20%）
テキスト	指定無 毎回 講義前に資料を配布する。
参考図書	『教育小六法平成30年版』学陽書房、2018年 木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』有斐閣、2009年。
備考	授業は、看護学科・医療栄養学科ごとに別々に開講される。 参考図書（既習科目にて使用）も持参が望ましい。 オフィスアワーは desknet's の一覧を確認すること。
授 業 計 画	
<p>第1回：ガイダンス 「教育制度」を学ぶ意義 「教育制度」を学ぶ意義を通して、「制度」についての理解を深める。</p> <p>第2回：「児童の学習権」について 児童・生徒の学ぶ権利を保障する、制度上の「課題」について、各自配布資料を基に考察し、討論を基に自己の理解を深める。</p> <p>第3回：教育法の仕組みについて 「憲法」や「教育関連法」について、その仕組みを学ぶ</p> <p>第4回：「教育の目的と目標」について 憲法や教育関連法から「教育の目的と目標」をまとめ、協議を通して理解を確かなものとする。</p> <p>第5回：学校教育制度と義務教育制度、「義務教育の目的と目標」について 学校安全への対応、特に学校管理下で発生する事故等からの危機管理について協議を通して理解を深める。</p> <p>第6回：学校経営と地域との連携について</p> <p>第7回：教育に関する社会的情勢と教育の機会均等について 「教育の機会均等」について学び、教育の現状における「課題」について考察し、理解を深める。</p> <p>第8回：学習のまとめ 教育制度論を学ぶ意義を通して、教育制度と教育実践について各自意見交換を行い、教育制度の「課題」について協議する。</p> <p>・レポート課題として「子どもの学習権とは？」「教育内容と学習指導要領とは？」「教育の機会均等とは？」を課題として提示する。日頃から、この三点について学びを深め、課題発表を通して、「教育制度」上の「課題」について考察を深めておくこと。</p>	